

---

# 恋の終り

LIDY

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋の終り

### 【コード】

N4933B

### 【作者名】

LIDY

### 【あらすじ】

終わる時は幸せな時。いつも不安な恋愛の一幕。

終りにしたい、と思うのは

彼の腕が私の体温と馴染む時

彼との行為には決まった順序がある

私が彼の部屋のチャイムを鳴らすとすぐに扉が開く

入った瞬間待ち兼ねたような振りで彼が私を引き寄せて

薄暗い玄関の壁に押し付けられたまま最初のキスをする

片手には靴をもったあたしの腕は不自由で

彼の唇を受けるしかない

彼に会うために塗り治したベイジユの唇は彼の体温で溶かされてしま  
まう

「久しぶりだ」

私は軽く笑って靴を脱ぐ

入ってすぐ左のベッドしかない部屋に連れ込まれる

「上着脱ぎなよ」

私は素直に彼に上着を脱いで渡す

きちんとハンガーにかけてくれるところに彼の育ちの良さを感じる

「今日はそんなに寒くなかったよ」

私は靴をベッドの下に置いて  
マフラーを外す

「風邪は大丈夫？」

「うん、平気」

上着をかけた彼が部屋の電気を消す

まだ昼間なのに

明るい時間なのに

この部屋は薄暗くなって

私の体は潤みだす

ベッドに座っていた私の上のし掛かる彼の軀  
がちりした彼の軀はたつぷりと重くて

私は笑ってしまう

嫌いじゃないこの重みは  
シートと彼に挟まれたら何処にもいけなくなつたみたいで  
たつぷり彼を感じられる

「重いわ」

そう言いながら彼の首に腕を回して

彼の頭を引き寄せて  
彼の匂いを確かめる

匂いを感じたら安心する。

あたしは動物みたいだ。

彼が私の服を一枚ずつ脱がす

彼はどこもかしこも暖かい

あたしは小さな頃からの疑問を溶けずにいる

暖かい人は心が冷たいのは本当？

この人はどうなのかしら

触れ合う軀はいつも暖かいけど

この人の心を私は知らない

知りたいけど知りたくない

冷えた軀に彼の手は暖かい

それさえ解っていれば

今はそれ以上は要らない

あたしはゆっっくり目を閉じた

いつか来る別れの予感を感じながら

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4933b/>

---

恋の終り

2010年10月9日22時26分発行